



社会福祉法人

大村子供の家



戦後80年を迎えて ~原点を振り返り、未来を創造する~

1945年に太平洋戦争が終結し、今年で80年を迎えます。大村子供の家は満州や朝鮮からの戦争引揚孤児保護を目的とし、終戦翌年の1946年9月より開始。当時は国の援助など殆どなく、地域から食べ物や物資を分けていただき子ども達を養育し、また、戦後の混乱期であったため、孤児だけではなく、地域の戦争未亡人（母）の授産施設や、生活に困窮する人たちの相談所、いわゆる「駆け込み寺」のような存在であったと聞き及んでいます。

それから約80年、時代の変遷とともに、今では戦争孤児こそ存在しませんが、何らかの事情で支援が必要な児童・ご家庭は今なお存在します。その濃淡はあれども、どのご家庭もそれぞれが他者と関わり、支援を受け、互いに協力し合いながら子育てを行っています。

「時代は変われども変わらないもの、時代と共に変わるもの」を見極めながら、未来の大村子供の家を思い描いているところです。その一環として来年の子供の家80周年に向けて、地域家庭支援のための建物建設を計画しています。解体作業に引き続き、皆様にご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解とご協力よろしくお願い致します。



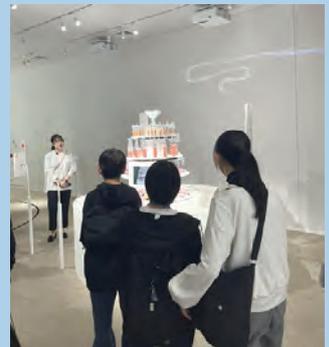
昭和30年頃 大村子供の家外観

資生堂久留米工場見学



2022年5月に稼働を開始した資生堂久留米工場。予約制ではありませんが一般見学も可能です（無料）。

資生堂子ども財団様よりご招待を受け、大村子供の家の中学生含む、長崎県の児童養護施設児童約30名を対象とし、3月25日の春休み期間中に、福岡県久留米市にある資生堂化粧品工場を見学させていただきました。工場見学やスキンケア講座を通じて「働くこと」「自分を大切にすること」を学ぶこの企画ですが、子ども達の学びは意外なところに発展。「工場はこんなに大きいのに、人が思っているより少なくてびっくり！」と、せっせと化粧品をつくる機械に着目している子もいました。機械をメンテナンスする技術者もいらっしゃり、最新の工場に目を丸くする子ども達ばかり。将来を考える良い機会となりました。資生堂の皆さんありがとうございました。



ももちゃん 逝く

大村子供の家のアイドル、シバヤギの「もも」が4月1日に天国へと旅立ちました。訃報を受けた際、「エイプリルフール」かと思いましたが、現実を目の当たりにし、大変ショックを受けました。心配してくれた子ども達や、年度変わりの超多忙期に駆け付けてくださった獣医師さんに感謝すると共に、我々にもっとできることがあったのでは、という反省や申し訳ない気持ちも残ります。獣医師さん曰く、腰麻痺（脳脊髄糸状虫症）といって、主に蚊が媒介する寄生虫により、神経がダメージを受け、体が思うように動かせなくなる病気にかかった可能性が高いとのこと。過去にも数回同じような症状がみられ、その都度病院に運んだり、獣医師さんに来ていただいて、対症療法を行ってきましたが、根本的な治療は難しく、今回はついに救うことができませんでした。

生き物を飼うということは、生きていた間の可愛い状態だけでなく、病気の時や、やがて衰え、死にゆく状況まで受け止める覚悟を持つことだと思います。ヤギを飼う前からその不安もありましたが、子ども達に「命に永遠はない」ということ、だからこそ「限りある命を大切にしなければならない」という学びにつながればと思い、飼い始めた次第です。今後新たにヤギを飼うかは未定ですが、これまでの教訓や反省を活かし、ヤギにとってよりよい環境整備をすすめていきたいと考えています。

若かれし頃のもも（左）



児童養護施設 大村子供の家 ～新生活へのメッセージ～

好きなアーティストのライブに行きたい。

資格の為の勉強を頑張りたい
新大学1年生

自炊や洗濯、片付けを頑張りたい
大学にしっかりと通い自立した生活を心掛ける
新大学1年生

節約を頑張りたい
節約したお金でインテリアを揃えたい
スノボに行きたい
新大学1年生

仕事を頑張りたい
自立して生活できるようにしたい
新社会人

やりたい事を見つける
車を買ってドライブに行きたい
一人暮らしで自炊を頑張る
新大学1年生

卓球部に入って部活動を楽しみたい
制服での登校が楽しみ
新中学1年生

部活動を頑張りたい(美術部)
給食が楽しみ
新中学1年生

勉強を頑張る
休み時間にお友達とたくさん遊ぶ
新小学1年生

Congratulations!

祝

おめでとうございます

新たな門出を迎える子供たちへ
新生活へ向けてのメッセージやがんばりたいことを聞いてみました。

小規模保育園 キッズホーム ～ずっとずっと、ともだちだよ～



1月は、お散歩コースの途中にある神社へ、初詣に行きました。一年の無事と平穏を祈願してきましたよ。



2月のイベントは“節分”。キュートな鬼さんが来てくれました♪鬼さんと楽しいゲームもしましたよ！



3月は1歳児と2歳児でお別れ遠足へ！電車に乗って向かったのは“ミライon”。自分たちで絵本を選んで借りました！司書さんによる楽しい読み語りも聞くことができました。



3月22日は「わたげの会」(卒園式)でした。キッズホームでは4名のお友だちが卒園しました。小規模保育園は2歳児までの受け入れのため、寂しい限りです。「自分でやってみたい」「自分でできるようになった」を沢山経験した子ども達。その過程を、葛藤を、喜びを一緒に味わうことが出来て嬉しかったよ。これからも、みんなの幸せを願い、見守っていますよ。



春の遠足(池田湖公園)



3月末、春の遠足に池田湖公園まで出かけました。新しく4月からb&g おおむらを利用するお友だちも数名参加し、みんなで池田湖まで

の道のり約2.4キロを歩きました。上級生が新1年生の手を引っ張ったりほほえましい光景も見られました。当日は桜がきれいに咲きまさにお花見日和。お友だちと仲良くお弁当をいただきました。

メリッタキッズ!

4月3日、佐世保にあるメリッタキッズへお出かけしました。スタッフの方の説明を受けヘルメットをつけて高い位置まで登ったり、飛んだり跳ねたり全身を使っての遊びにみんな大喜び! 思いっきり体を動かすことができ、とても楽しんでいました。春休みのいい思い出になったのではないのでしょうか。



認定こども園 キッズランド ～第6回卒園式&卒園製作～

令和7年3月8日、第6回卒園式を無事に終わることができました。15名の卒園児は保育証書を堂々と受け取り、寂しさを感じながらも、園での大切な思い出を胸に小学生に向けての第一歩を踏み出そうとしています。

第2部では、ハンドベルとグロウケン演奏やダンスを披露してくれました。成長した子ども達の姿を見ることができ、感動の卒園式になりました。



卒園記念製作は、タイルに似顔絵を描き、みんなで協力して描いた大きな虹の上に貼り合わせました。玄関前の壁が明るくなりました。くじらぐみさん素敵な作品をありがとう☆



世界の国からこんにちは ~リトアニア~ 日本のシンドラ 杉原千畝の物語



ヨーロッパ・バルト三国の一つ、リトアニアに日本ではあまり知られていない現地の偉人が存在する。その名は杉原千畝（すぎはらちうね）。カウナスの領事館で外交官として働いていた彼は第二次世界大戦中に、「命のビザ」発行により、逃げ惑う多くのユダヤ系難民を救済した。当時、ナチスドイツのポーランド侵攻と共に多くのユダヤ人が迫害・虐殺された（ホロコースト）。またソ連がリトアニアを併合すると、日本領事館職員も一か月以内の出国を余儀なくされる。そんな混乱期中、日本経由で他国に逃がすため当時彼がユダヤ人のために発給した命のビザは2139通にもものぼる。ソ連や日本から再三の退去命令を受けながら、寝る間を惜しんで書き続け、手の痛みに堪え、千畝が隣国へ鉄道で避難する直前まで、駅のホームまで追いかけてくるユダヤ人にビザを書き渡した。



杉原千畝 1900～1986

千畝にとってユダヤ人にビザを発給することは、当時日本政府の意と反する行為であったため、彼とその家族すら危険が及ぶ可能性があった。「外交官としてか、人としてか」という究極の選択に迫られた時、彼がとったものは人道であった。汽車がホームを離れる際「許してください、私にはもう書けない、みなさんのご無事を祈っています」と告げ、ユダヤ人たちと涙の別れを遂げた。



バルト三国・フィンランドも含め、上から「フェラーリ」(エストニア・ラトビア・リトアニア)と覚えよう!

それから28年もの年月が過ぎ、一人の男が千畝をもとを訪ねてきた。「あなたは私のことを忘れたかもしれませんが、私たちは片時たりともあなたを忘れたことはありません。28年間あなたのことを探していました。やっと、やっと会えました。スギハラ」

涙ながらに訴える彼こそ、28年前に千畝からビザを発行してもらい生き延びたユダヤ人だったのです。千畝が帰国後、また彼の死後まで日本ではあまり評価されなかった彼の人道行為は、世界で今なお評価され、彼の行為に報いようと東日本大震災の際に多くの支援金がリトアニアやイスラエル等から日本に届きました。千畝の英断は彼が亡くなった後も日本の外交にプラスの影響を与え、今でも両国友好の懸け橋となっています。



杉原千畝記念館 千畝の執務室@カウナス



カウナス日本領事館に救いを求めるユダヤ人難民たち

行事予定

- 4月・・・こども園、小・中・高始業式・入学式(上旬)、歓迎遠足(下旬)、親子遠足(19日・ランド)、市長訪問(30日)
- 5月・・・こどもの日のつどい(ランド・ホーム)、子供の家健康表彰、こどもの日全体行事(上旬)、園外保育(ホーム)、しゃくなげ見物(b&g)
- 6月・・・九州児童養護施設研究大会(11～13日 大分県)、法人理事会、評議員会(中下旬)

編集後記

春。今年も美しい桜の季節がやってきました。別れと出会いの季節でもあります。「袖振り合うも多生の縁」という言葉があります。道ですれ違うほどの些細な縁も前世からの因縁であるという出会いの不思議さを表す言葉ですが、新しく人に出会ったときにふとその言葉が浮かびます。目の前にいる人も何か不思議な縁にさそわれて出会ったのだと思えば、少し優しい気持ちが湧き上がるのではないのでしょうか。そんなご縁をこの春もたくさんいただけるといいなと思っています。KK

大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町591番地2
TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661

